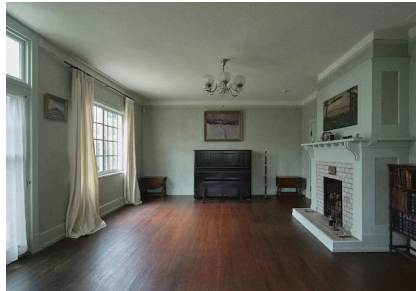


令和8年度（公社）愛知建築士会 半田支部 研修旅行

（公社）愛知建築士会 半田支部 研修委員会

近江八幡ヴォーリズ建築



大津百町の建物遺産



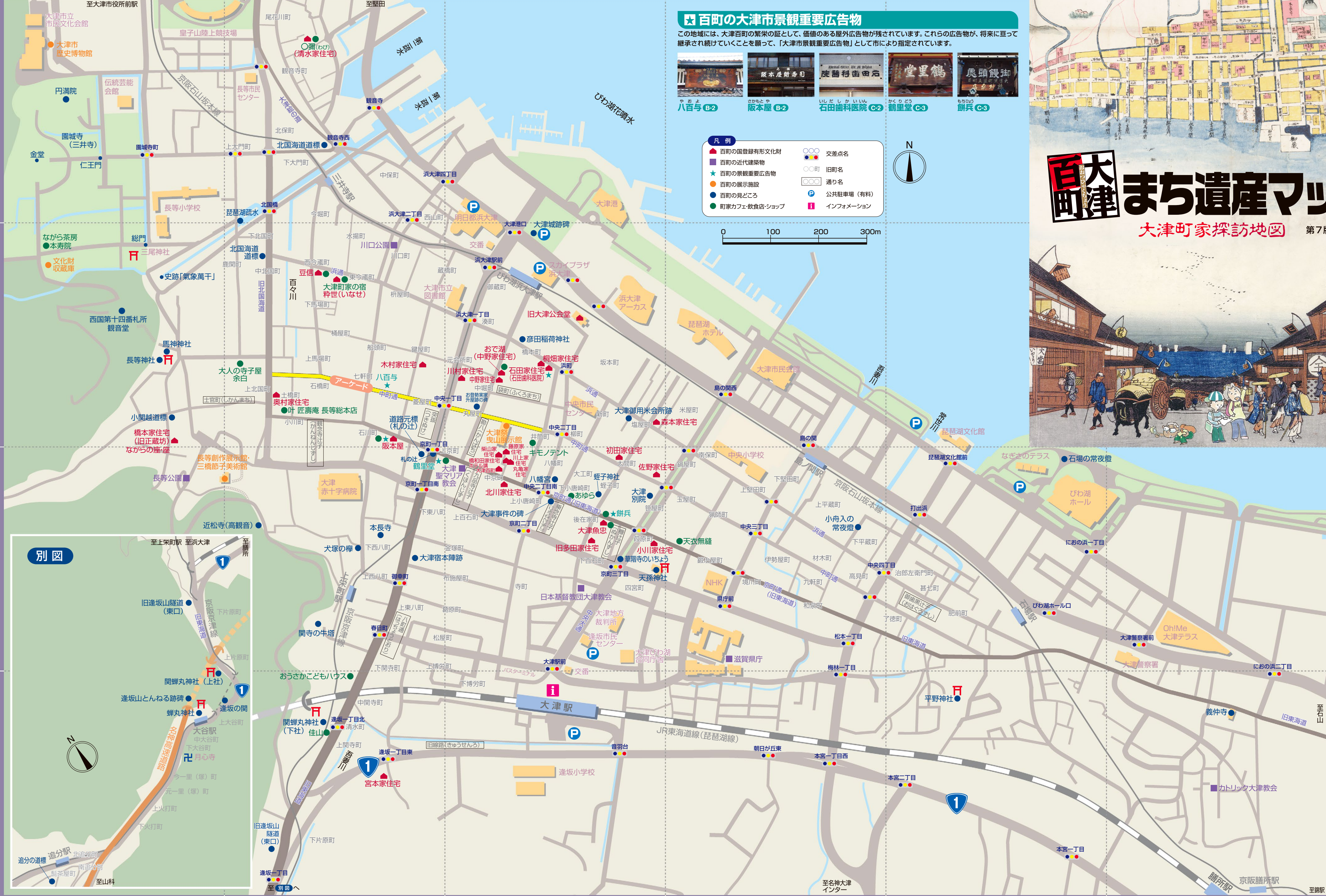
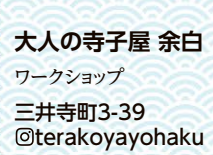
ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(1880～1964)の建築は滋賀県立商業高校の教員時代の八幡YMCA会館を第一作とし、1910年ヴォーリズ合名会社の設立、1920年のヴォーリズ建築事務所へ継承され、戦時期の1944年より活動休止、1946年に再開し戦後期活動をはじめた。全国各地約1600にも及び、教会・学校・小学校・幼稚園・保育園・病院・商業・オフィスビル・住宅などがある。活動のはじめは、ヴォーリズ合名会社の創設メンバーの一人、商業高校着任時の第一の教え子でもある吉田悦蔵の存在がある。活動原点の近江八幡では、吉田悦蔵邸(内部見学)、ウォーターハウス邸記念館(外観)や旧私邸のヴォーリズ記念館・旧YMCA会館、ハイド記念館・教育会館、旧八幡郵便局(それぞれ内部見学)

江戸元禄時代に大津の町割りがある100町もある繁栄した町で江戸後期の京町屋が残る複合都市でもある。登録有形文化財(建築物)を巡る町歩き。通りに面した外観は昭和初期に道路拡幅工事の実施で、側溝を道路境界線寄りにずらし道路にはみ出した庇の軒切、「泥上げ敷き」許可で出せた床机・陳列台の撤去要請。多くの町屋は「軒切り」実施。町屋の外観は虫籠窓からガラス窓に変更や2階部が座敷化(小川家住宅・佐野家住宅～10軒以上外観見学)

- 日時 令和8年11月28日(土)7:45集合 名古屋新幹線改札口銀の時計前
- 場所 滋賀県大津百町 滋賀県大津市京町三丁目～中央町一丁目～中央町二丁目
- 大津魚忠<昼食> 滋賀県大津市京町2丁目4-10 (登録有形文化財・建築物)明治38年建築
ヴォーリズ記念館 滋賀県近江八幡市慈恩寺町元 TEL:0775-22-4428
TEL:0748-32-2456
- 行程 8:12 名古屋駅==9:10大津駅 ***11:30大津百町 登録有形文化財(建築物)巡り 大津魚忠(昼食)老舗料亭12:10
12:25大津駅==12:52近江八幡駅 13:00==13:07鍛冶屋町***13:10ヴォーリズ建築記念館*** (14:00～15:00
吉田悦蔵邸 予約見学)***16:50鍛冶屋町==17:05近江八幡駅17:41==18:07米原18:18==19:27名古屋駅
- 参加費 半田支部会員(家族)・・・9,000円 (家族小人)・・・4,500円 半田支部会員(専攻建築士)・・・8,000円
士会会員・・・・・・15,000円 士会会員(専攻建築士)・・・・・・14,000円
- 参加人数・他 先着 15名程度 申込み締切 10月28日 参加費は当日持参
- その他 CPD申請予定 吉田悦蔵邸(近江八幡市池田町5丁目21-3)14:00～15:00 見学予約
昼食は「大津魚忠」だし巻き鰻重(全5品)5,720円、花遊手かご弁当(月)(全6品)5,500円いずれか
旅行キャンセルの方へ:名古屋駅～京都駅 指定席新幹線チケット事前に送付予定ですので 各自精算必須
行き指定新幹線代金 6,110円を半田支部へお支払いください。

参加申込方法 下記参加申込み書に記入の上 EメールかFAXでお申し込みください。
申し込み先:大坪一子建築設計研究所 FAX 0562-32-3599 E-mail ootsubo@dream.email.ne.jp

申込書			
参加者名	フリガナ		
連絡先 会社名または 自宅住所	〒	TEL	FAX
		携帯	Eメール
士会会員(会員番号)・CPD番号(お持ちの方)			
支部名			
非会員			
昼食 希望(ご希望の内容に○をつけてください)		花遊手かご弁当(月)	だし巻き鰻重



大津百町 まち遺産マップ

「大津百町（おおつひやくちょう）」とは、江戸元禄時代、大津の町割が100町もあり、その繁栄ぶりを称することばです。大津の地名は、大きな港(津)に由来し、すでに平安時代、都へ物資を中継する港として重視されていました。豊臣政権下で大津城が築かれた天正14年（1586）頃、現在の市街地が形成された。関ヶ原合戦で城下町としての役割を終えるも、大津は、徳川政権下で、城下町から商業都市へと変貌。江戸幕府の直轄支配地（天領・てんりょう）として代官が置かれ、宿場町、港町、三井寺の門前町として発展。大津百町は、多様な町の姿を合わせた複合都市として繁栄したといえます。大津百町のまちを地図を手に、ゆっくり歩いてお楽しみ下さい。

大津町家 コラム 大津町家もののはじめ探訪

大津の中心市街地、いわゆる大津百町には、江戸時代末期から戦前までに建てられた伝統的な建築物である大津町家が多く残っています。東海道五十三次の宿場町でもあった大津は、距離だけではなく文化の嗜好も京都に近いこともあり、大津町家は京町家の特徴を多く持っています。京都は幕末の戦乱期、特に元治元年(1864)の禁門の変の後、京都市中が大火に見舞われ、町家をはじめとする建物の多くが焼失しました。今残る京町家は、それ以降に建てられたものがほとんどですが、幸いにも大きな災害や戦乱に遭うことがなかった大津町家には、江戸後期の京町家の特徴が残っているとも言われており、とても貴重なものです。但し、主要な通りは、昭和初期、滋賀県立道路拡幅事業に伴い、「軒切り」という建物の正面を削り取ってより改造工事が行われたため、江戸期の外観を持つ大津町家は少ないことも特徴のひとつです。大津は建てられた当初の意匠が多く残っています。もうひとつ、興味深いことは、「軒切り」をする前に、奥が「軒切り」前の写真を撮影して、各所有者に渡したことです。その当時、写真はまだ貴重であつたため、どの写真も当主や店人の、自慢できるものなどと一緒に記念撮影しました。京町通のいくつかの家では、10月の大津祭の宵宮の日に、その当時の写真を表に展示していますので、往時の大津町家の外観を楽しむことができます。なお、この2枚の古写真の町家は、今も街中にあります。

百町の国登録有形文化財

橋本家住宅（旧正蔵坊） A-2

正蔵坊は、かつて三井寺五別所の一つ「微妙寺」の坊として正保元年(1645)に建造（再興）されたものと推定されています（『園城寺文書』等の資料より）。戦前から既に一般住宅として使われてきましたが、建物の主要部分である本格的な書院造の「一の間」と庭は奇跡的に建設時のまま保存されてきました。登録有形文化財になったのを機に「二の間」を修復し、往時の姿を取り戻しました。また、同時期に築造されたと推定される池庭は、三構式の切堀や豪華な枯滝を持ち、観音と不動明王を主題とした部分と、洞窟と浮島によって神仙蓬莱の世界を現している部分から構成される大変珍しい庭園です。

※家と庭は、各種イベントの開催時及び見学希望者(事前申込み要)に公開しています。

豆信 B-2

豆信は明治27年(1894)初代今井忠五郎が創業、大正7年(1918)に長女のためにこの料亭旅館を建てました。(1935)の浜通のり昭和9年に道路拡幅されたため、向かいに住んでいた大工、山岡長兵衛棟梁の手により、軒切りと同時に大改造し、虫籠窓だった正面の外観は、2階建て、ガラス窓の現在の姿になりました。旅館はやめてから、2階の大広間や洗面などの内部にその名残を残しています。現在も料亭として使われ、大津では大変希少価値の高い料亭旅館建築で、表の門扉など3棟が国の登録有形文化財です。

木村家住宅（内部非公開） B-2

江戸後期より戦前まで材木商を営んでいた木村家は、複数の貸し家、材木納屋などを有していましたが、ほとんど除却され、この主屋など2棟が当時のまま残されています。正面の通りは、昭和初期の道路拡幅がなかったため、江戸末期の町家の意匠である虫籠窓や、つし2階建の、構造を内外にそのまま残す町家です。通りから見ても1階右端の板張仕上の壁の内側は、出格子部分の板戸が引き込まれるようになっており、これは大津の町家の特徴の一つです。

奥村家住宅（内部非公開） B-2

旧北国海道に面して建つ木造2階建の町家は、昭和庄次郎が昭和8年(1933)に生まれだ跡取りとなる男子の孫 保の誕生を喜び、鹿間町に住む知人で工務店を経営していた大工 稲田卯三郎に設計施工を依頼したと云います。昭和9年(1935)の設計書と図面が残されており、建物に使った材料などがわかります。御影石磨き仕上げの腰壁、浅黄色の大津壁、数寄屋の意匠である南窓の小庇が特徴的です。平成の道路拡幅工事で建物が道路にかかるため、平成26～27年(2014～15)曳き家して現在の場所に移築しました。

阪本屋 B-2

明治2年(1869)、膳所木下町にあった膳所藩お抱えの御用料亭「本坂家本屋」から、耐ずしの販売を専門に行う店として分店し、初代内田太七郎により大家族の住まいとして建てた木造2階建の町家で、帳場のみ階の表に構えていました。通りから見える正面は、昭和初期の御影石磨き仕上げの腰壁と上半分が木格子と欄間で構成され、黒い大津壁は建てられた当時のまま、復原されました。2階内部は中廊下形式で、居室は独立性が高く洋間もあり、それらをそのまま生かした改修をされており、日本の近代化住宅の模式を今も再現していることができます。

大津町家の宿 粹世 B-2

大津町家では初めて宿として改修し開業しました。向かいに住み米商いをしていた吉川定五郎がこの地を購入し、昭和38年(1933)棟梁 岡本万三郎により大家族の住まいとして建てた木造2階建の町家で、帳場のみ階の表に構えていました。通りから見える正面は、昭和初期の御影石磨き仕上げの腰壁と上半分が木格子と欄間で構成され、黒い大津壁は建てられた当時のまま、復原されました。2階内部は中廊下形式で、居室は独立性が高く洋間もあり、それらをそのまま生かした改修をされており、日本の近代化住宅の模式を今も再現していることができます。

大津魚忠 C-3

明治38年(1905)、呉服商の住屋として建てられた木造2階建の町家で、現在は料亭となっています。下北国町の大工、横井勝治部棟梁が手がけた建物で、設計にも優れた才能を見えています。1階の木製の細い縦間格子、内部の木の使い方に、横井棟梁の意匠の特徴を見ることができます。昭和初期の道路拡幅に伴い、オモテ部分を軒切りし、その後半分が、曳き家をしました。が、虫籠窓を残し、明治後期の商家の姿を良く留めています。内部座敷は、柱目を基調とした普請で、当主と棟梁のごだわりが感じられる主屋です。また、庭は近代庭園の先駆者、精治こと7代目小川治兵衛の作庭です。

小川家住宅 C-3

江戸末期に建てられた間口2間半の町家で、大津の町家としては最小間口寸法と考えられます。昭和初期の道路拡幅時に、屋根の棟の位置を半間手前にずらすと、通りに面して軒の高さ1階になるような改造がされています。2階はガラス窓にして大津祭の曳山巡行を見物できるようにし、1階の腰付出窓は、下は研ぎ出し仕上げとし、上に間隔の粗い縦格子を入れています。が、昭和初期に流行した当時最先端の技術で造られた意匠です。間取りは、間口1間のトオリ二ツと1列に並んだ4室のザシキで構成されています。内部も昭和初期に改造されていると思われますが、荒怖さん、おくどさん、井戸が残されています。
※公開施設ではありませんが、在宅時は、内部を見せていただくことができます。

清水家住宅（内部非公開） B-1

旧北国海道から路地を入ったところに、数寄屋の意匠を感じる近代和風住宅があります。小屋里の棟木に、大正15年12月上棟の墨書があり、内部の状況から西隣と一体の長屋住宅で大きく改造したことが分かりました。当時は、琵琶湖が目の前まで来ており、2階の座敷の縁に大きくガラス窓を設けた理由です。建築主は古澤豊治郎、昭和24年に清水仙太郎が取得、現在は、〇彌(わび)として、住居兼飲食店・民泊をされています。

初田家住宅（内部非公開） C-3

主屋や、東の通りに面する塀など国の登録有形文化財で、いずれも江戸末期の建築と伝えられています。主屋は当初はつし2階建てが、昭和9年の道路拡幅時に軒切りして、2階建に改造。その際、大津祭の曳山巡行を見物するため、2階のオモテノマを座敷化しました。巡行の際には、ガラス窓を取り外し、広く開口部を、毛氈(もうせん)を垂らして見物します。また、角地にあるため、煙出しの小屋根(越し屋根)がよく見えます。また、東の通りに見える主屋側面の妻壁と塀瓦を乗せた高塀の焼杉板が印象的です。

佐野家住宅（内部非公開） C-3

主屋は、鬼瓦路や棟札から天保9年(1838)年に大工、岩佐棟梁より建てられた木造2階建の町家です。通りから見える正面は、昭和初期の道路拡幅時に大きく改造され、近年にも手が加えられていますが、内部には貫の高い広間の座敷があり、当時の大工の粋や、多くの絵師文人のトロントだった建築当時の当主の文化に対する造詣の深さが偲べます。

森本家住宅（内部非公開） C-2

主屋は木造2階建の町家で鬼瓦路から嘉永2年(1849)、棟札から大工、吉左衛門棟梁より建築されたことがわかっています。現在は、主家の手前1つに構えのある塀と前軒がありますが、建設当初は、表造りという形式の大型町家でした。昭和初期の道路拡幅で表屋をふんだんに使用した現在の姿になりました。角地にあるため、石蔵や腰石をふんだんに使用した現在の姿になりました。角地にあるため、土蔵のように漆喰の大壁造とした側面の妻壁も印象的で、煙出しの小屋根(越し屋根)もよく見えます。内部には大広間があり、以前は琵琶湖の景色がよく望めたことでしょう。江戸末期の主屋と昭和初期の小屋が国の登録有形文化財です。

大津市旧大津公会堂 C-2

昭和9年(1934)に建設された旧大津公会堂は、名称や用途を様々に変えながら市民の交流の場として親しまれてきました。縦長の窓など直線的なデザインを基本に、丸窓や半円形のアーチ窓が設けられ、外壁には昭和初期に流行した縦線模様のスクラッチタイルが張られていた鉄筋コンクリートの公共建築で、国の登録有形文化財です。平成15年から地味住民を中心に起こった保存運動の後押しを受け、大津市の中心市街地の賑いを取り戻すための集客交流拠点として整備され、建築当時の洋館の雰囲気やそのままだ、平成22年に飲食店が入った交流・商業施設として大きく生まれ変わりました。

滋賀県庁本館 C-3

戦前最後の大建築で、昭和14年(1939)に竣工。昭和12年(1937)に軍需資材の節約のために施行された「鉄鋼工作物築造許可規則」を間一髪すり抜けて建設されました。設計は日比谷公会堂や大隈記念講堂などを手掛けた佐藤一と大阪で高校工務所を営み、濃密な装飾を凝らす作風を知られた國枝博のふたりで施工は大井組でした。大きく異質である洋風とした柱の縦の線反の意匠との(バンスや内部の装飾が素晴らしい、格調を持ったまさに県政を司る機関に相応しい近代建築物といえます。鉄筋コンクリート造4階建ですが、正面中央の塔屋部分には5階があり、明治23年(1890)4月、琵琶湖大開通式に明治天皇行幸の際、旧県庁の正庁が御座所となり、これを保存すべく、聖蹟記念堂として移築されています。

宮本家住宅（内部非公開） B-4

昭和5年(1930)、ヴォーリス建築事務所の設計、長等の石倉工務店の施工で完成した木造2階建の洋館住宅です。宮本宅邸はウィリアム・メレル・ヴォーリズが明治38年(1905)滋賀県立商業学校(現八幡商業高等学校)に着任した際、通訳を務め、その後も深い信頼関係にありました。屋根はスペイン瓦葺き、外壁はスタッコ塗、縦長窓や半円アーチ窓を並べ、煙突を二本設けています。居間から琵琶湖が一望できるように工夫され、食堂兼台所は使いやすくさを重視、建物と調和が図られた建具や調度品も保存良好で、居間のアルコーブや暖炉、緩やかな階段などにヴォーリス建築の特徴がよく残っています。

旧多田家住宅（内部非公開） C-3

下石町の小路にある間口3間半の町家で、いつ誰が建てたか定かではありませんが、戦後独立して呉服の商いを始めた多田庄一はこの町家をとて気に入り購入しました。1階に出格子・駒寄、2階に虫籠窓、袖卯建といった明治期の大津町家の特徴である意匠を多く残しています。内部のトオリ二ツにも、黒いモザイクタイルを使っておくどさんや井戸があります。

ホテル講 大津百町（橋和田家住宅） C-3

元は呉服大商「近江屋」であった上野新右衛門家の主屋で、旧東海道に面して建つ間口のある町家です。昭和7年(1932)向かいに店と住まいを移転、東1間半を撤去し通路をつくり、敷地奥に二戸への長屋建て3棟、計6軒の貸し家屋を新築し、主屋は3軒に分けました。そのうちの東2軒を戦後、橋和田倫次郎が取得。昭和後期に鉄板で覆ったいわゆる看板建築になりましたが、その後撤去、平成29年(2017)に木の家専門店 谷口工務店に1階一部と2階を貸して、ホテル講 大津百町「近江屋」となりました。

丸亀家住宅 川上家住宅 柴山家住宅 藤原家住宅 C-3

昭和7年(1932)に、上野新右衛門が居敷奥に建てた二戸への長屋建て3棟、計6軒が、戦後売買され、それぞれ変遷を経て、現在の所有者の住まいとなりました。旧東海道から路地に入ると道路の喧嘩が少し静まり、独特の雰囲気包まれます。隣り合わせた丸亀家住宅（tsuwa sake ninogo）と川上家住宅、柴山家住宅はホテル講 大津百町「龍巖」と二戸一、藤原家住宅は二戸が一軒になっています。意匠も様ごとにしずつ異なり、センスを感じます。

百町の近代建築物

日本聖公会大津聖マリア教会 C-3

日本聖公会京都教区の「大津講義所」として、明治24年(1892)に本格的に伝道が開始されました。その後、「淡波基督教教会」、「大津基督教教会」、「大津聖公会」など、たびたび教会の名称変更はありましたが、昭和6年(1931)に大工、宮川庄助棟梁により、現在の場所に礼拝堂が落成、戦中の混乱にも耐え、礼拝、伝道の場として活用されてきました。京阪浜大津駅から勤八通りを上ると、青緑色の三角屋根と十字架が正面に見え、2階の木製の上げ下げ窓、玄関開欄の鳩のステンドグラスが印象的です。

日本基督教団大津教会・愛光幼稚園 C-3

昭和3年(1928)、ヴォーリス建築事務所の設計、長等の石倉工務店の施工で完成した木造2階建のキリスト教会です。教会の南側に幼稚園が併設されています。教会正面右側の鐘塔と玄関はひときわ特徴的で、渦巻き状の持ち送りや、浮き彫りの数章が、凝ったつくりとなっています。鐘塔は上部に二重のアーチで両端に付くロマネスク風です。ヴォーリスは教会を、満ち溢る愛と幼児心に情熱を燃やしましたが、この建物はそんな夫妻の理想を表現したものであるでしょう。施工を請い受った石倉豊四郎建築は、教会の信者であり、他にも大津市内にヴォーリスの設計で教会関係者の自宅を施工しています。

カトリック大津教会 F-4

京都のあまりか屋が大林組の下請けとして施工、昭和14年(1939)に竣工しました。外観は、普通の教会と異なり、日本建築そのもののですが、これはバーン司教の信念によるもので、信仰の土着化という立場から教会の建物は日本風のものであるべきだという考えに基づき建設されました。聖堂はバシリカ風の教会を基本として、変化に富んだ青瓦の屋根は印象的で、内部にはカラフルなタイルを用い、とても美しい建物です。布教のために日本人に親みのある教会を造ろうとしたバーン司教の思いを建築技術者が匠に表現した建物といえるでしょう。

大津町家 コラム 外観の違い

大津町家の外観は、時代の異なる2つのタイプがあります。ひとつは軒切りの必要がなかったため、建てられた当時の意匠を残しているタイプで、多くは江戸末期や明治前期の外観です。1階に「出格子」や「ぼたり床札」、2階に「虫籠窓」や「袖卯建」があります。もうひとつは、昭和初期「軒切り改造工事」の際に、新しい意匠や材料を取り入れた外観です。1階に「腰付出窓」、2階に「ガラス窓」「肘掛」があります。特に「腰付出窓」は、雨で傷みやずかった「出格子」の改良版ともいえ、腰部分に御影石を用いたものが主流ですが、御影石に似せた「人造石磨き出し仕上げ」という官官仕上りや、小ざら正方形のモザイクタイルを使ったものもあり、昭和初期にはいろんな工夫が入っていたことが分かります。通りから違いを楽しみながら、町歩きするのー興です。

大津町家 コラム 大津町家『軒切り』の真実

通りに面した大津町家の外観は、昭和初期に大きく変わりました。浜通り、京町通り、中町通りの順に、道路拡幅工事が実施され、町家の正面を切り取ることはなかったのです。これは大津に限ったことではなく、日本の多くの町が近代都市となる過程で行われ、地元では「軒切り」という言葉で伝わっていますが、その実態は忘れられてしまいました。この道路拡幅は正確に言うと「軒下地として利用していた官有地路敷地の占用取り消しに伴う道路拡幅」といいます。
それまで、町家の軒下は、官有地つまり道路の一部で、雨水の側溝が今より道路中心寄りにありました。現在のように道は舗装されていないので、側溝に溜まる泥掃除は町家の住民がしていました。側溝から上げた泥を置ききた軒下を「泥上げ敷き」といい、代わりて占用の許可を取れば、ぼったり床りや、陳列台、底を設けることができました。昭和初期、交通手段が車に代わり道路を広げる必要性が高まり、泥上げ敷きを廃止し、側溝を道路境界線寄りにならずし、実質的な道路拡幅を図ることになりました。道路所有者である滋賀県や大津市から各家に「占用を取り消すので、1年以内に軒下地として利用している部分を除去せよ」という文書が出されます。これにより、多くの町家は「軒切り」という形で町家を切り縮めることになったのです。軒切りせずに内部で縮める改造や、建て替えたところもあります。そのように、軒切りのした町家は、虫籠窓からガラス窓に変えて、2階のオモテはつし（物置場）から居室となります。さらに大津祭の曳山巡行路に面する町家では、床の間を設けて座敷化し、2階から曳山を見るようになります。

百町の社寺・史跡

園城寺（三井寺） A-1

天台宗門宗総本山。大友皇子の子、与多王(よたおう)の寄進により創建し、後の貞観9年(866)円珍が天白別院として再興しました。同寺の湧水を天智・天武・持統の三天皇の産湯としたことから御井寺(みいのてら)と呼ばれています。国宝の金堂を始め、数多くの指定文化財の建造物が建ち並んでいます。

小関越道標 A-2

小関越から園城寺(三井寺)への分岐点に立ち、「左り三井寺　是より半丁」「右小関越三条五条いきま　京道」「右三井寺」と刻まれています。西国三十三所観音巡礼の三井寺と今熊野観音寺を指すことから、この道が巡礼道であったことを示しています。市指定有形民俗文化財。

長等神社 A-2

天智天皇が大津宗鎮として、須佐之男命を長等山」に祀られたのが創建。貞観2年(869)日吉山王津を勧請した園城寺の守護神となりました。明治38年(1905)後期の楼門は市指定文化財。境内の馬神神社は「馬の神社」として町家に残っています。

琵琶湖疏水 B-2

明治時代、琵琶湖の水を京都へ通すために作られた水路で、京都市の飲料水・発電や物資輸送、農業用水などに利用するために立案されました。第1疏水は田邊明郎の設計監督のもとで明治23年(1890)に開通。第2疏水は、明治45年に完成をみえています。令和7年(2025)には、国宝・重要文化財に指定される予定です。

近松寺（高観音） B-3

園城寺(三井寺)の五別所の一つで、別名は高観音。建築は、本堂は享保元年(1716)、阿弥陀堂は嘉永3年(1805)で、市指定文化財です。本堂は江戸時代の仏堂形式を知る上で貴重です。また、ここからお見おろす琵琶湖と大津の町家は、古くから人々に親しまれています。

本長寺 B-3

永禄5年(1562)、等覚院日壮上人により創建された日蓮宗寺院。大津代官であった小野、石原両氏の菩提寺で、境内の墓地には小野氏歴代の墓が並んでいます。また松尾芭蕉の門人で、大津の医師であった江左尚白(えさしう)の墓も残っています。本堂、書院は国指定重要文化財。

大塚の樺 B-3

中央大通りの橋である蓮如(1415～1499)が大津に滞在、法敵に毒殺を謀られたとき、身代りとなって死んだ忠犬を葬った塚に植えられたと伝えられます。この伝承には、樹齢は500年を超えることとなります。市指定文化財。

大津陣本陣跡 B-3

本陣は、江戸時代に宿場におかれた大名などの宿泊施設。大津宿には2軒の本陣があり、この地はその中の大塚嘉右衛門宅です。当時の本陣は3階の楼上的からの琵琶湖の眺めが絶景だったといわれています。建物は現存せず、本陣跡の碑や明治天皇足跡碑が残っています。

関寺の牛塔 B-3

長安寺境内にある石造宝塔。昔この地に関寺という大寺がありましたが、平安時代中頃に地震で倒壊。旧日工事の際、仏の化身である一頭の子が資材運搬を手伝い、完了と共に死んだことから、供養のために建てられたといえます。高さ3.3メートル。鎌倉時代のもので、国指定重要文化財。

関蟬神社 B-4 図例

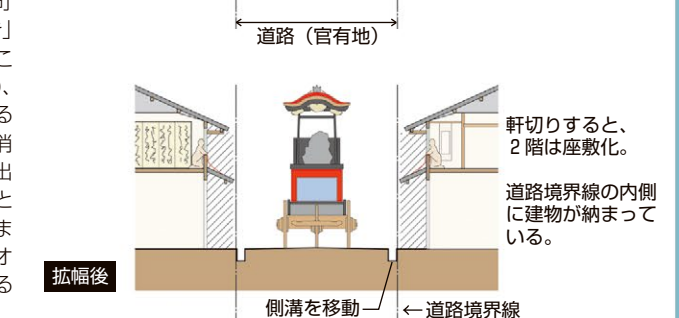
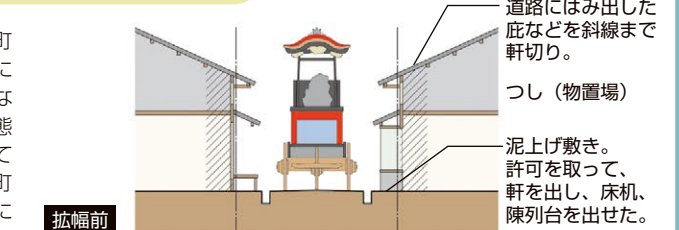
小野寺守により822年に旅人を守る神を祀ったのに始まるとされます。平安中期には、琵琶法師・歌人である蝉丸が祀られるようになり、音曲琵琶の神として信仰されるようになります。逢坂一丁目に上下の二社があり、下社の時雨庵は国指定重要文化財です。

逢坂の関 図例

古代から交通の要所とされ、延暦14年(795)には関所の前身ともいえる施設が置かれ、その後、平安時代の中頃には不破・鈴鹿と並ぶ三関の一つとして朝廷に重視されていました。現在の峠には、関跡碑とともに逢坂関記念公園が整備されています。

旧逢坂山隧道（トンネル） 図例

鉄道通称にあたる明治13年(1880)、大津・京都間に完成した全長664メートルのトンネル。当時、鉄道敷設は外国人が指導していたが、日本人のみの手で施工された日本最初のトンネルとして、鉄道記念物になっています。大正10年(1921)の路線変更により廃止され、現在は東口のみが残っています。



大津城跡 C-2

天正14年(1586)頃、豊臣秀吉の家臣浅野長吉(長政)により築かれた城。今の明日香大津の湖岸側一帯が本丸でした。慶長5年(1600)の関が原合戦を東軍（家康軍）の勝利に導いた大津龍城戦は有名です。合戦後、天守は彦根城に移築されました。

彦田稲荷神社 C-2

江戸時代、浜通り一帯には幕府や諸藩の蔵屋敷が立ち並んでいました。このあたりは、彦根藩の蔵屋敷があったところで、元はその敷地内に祀られていたと伝えられています。

大津事件の碑 C-3

明治24年(1891)、来日したロシア皇太子ニコライが、警備中の巡査津田三蔵に斬りつけられた事件。ロシアを恐れる明治政府は、津田三蔵を大逆罪で死刑にするよう迫りましたが、大審院長の児島惟謙の主張により、刑法どおり無期徒刑とし、司法権の独立を貫きました。事件現場には、「此附近露国皇太子遭難之地」の碑が残っています。

大津御用米会所跡 C-2

江戸時代、大津には北国・東国の諸大名の領地から、年貢米を始めとする大量の物資が琵琶湖水運によって集められていました。この場所には、大津御用米会所が設けられ、米の相場がたち、盛んに取引が行われていました。今でも残る石置に往時の米取引の面影が偲べます。

蛭子神社 C-3

由来は不詳ですが、坂本に樺宮社の神木が倒れ、この木から神像を作り、これを祀っていると言われています。かつては「胡神社」、「東神社」とも記したと云います。また、4月3日の日吉山王祭の大権神事の際して、天孫神社への遷御の途中、大樹はこの神社に立ち寄り祈禱が行われます。

大津別院 C-3

浄土真宗大谷派の別院。慶長5年(1600)に石山本願寺で織田信長に徹底抗戦した教如(きょういよ)が創建。本堂は寛安2年(1649)の建築です。また書院は、寛文2年(1662)の大地震で倒壊後、同10年に再建。書院は桃山建築の素簡らしさがよく表れています。本堂、書院は国指定重要文化財。

華階寺のいちょう C-3

中央大通りの分離開立つ2株のいちょう。道路建設前、この場所は華階寺境内でした。天文元年(1532)、華階寺の開基とともに、植えられたと伝えられます。今も大津駅前のシンボルとして偉容を誇りますが、湖上交通の盛んであった頃も、よい目標となっていたようです。市指定文化財。

天孫神社 C-3

天孫神社は、かつて四宮神社・天孫四宮大明神と称され、明治初年に現在の社名となりましたが、現在も「四宮さん」の名で呼ばれています。秋の例祭は湖国三大家のの一つとして数えられる「大津祭」です。令和7年(2025)には「大津祭の祭礼行事」が、ユネスコ世界無形文化遺産に追加登録されました。

小舟入の常夜燈 D-3

文化5年(1808)、京都の講中が伊勢両宮の常夜燈として建立。このあたりに、かつて琵琶湖の入り江があり、常夜燈は船の目印となっていました。基壇部分には京都と大津の世話人と、石工の名前が刻まれています。市指定有形民俗文化財。

石場の常夜燈 E-3

大津と対岸の矢橋(やばせ)間の渡船の目印として、幕末の弘化二年(1845)に石場・京・大坂などの船仲間で共同によって建立された、高さ8.4mの常夜燈。海岸の埋め立てとともに2度移転しました。

平野神社 E-4

創建は大津宮の頃と伝えられ、7世紀の中頃、皇極(こうぎょく)天皇の代に京都西河院菟野井にまつられた菟野(かみり)の神、精大明神を松本の狐谷に移し、後の天正2年(1574)現在地に再度移されました。毎年8月9日、古式ゆかしい菟野の奉納があります。

義仲寺 F-4

義仲寺は源義仲(木曾義仲)を葬った塚のあるところから名付けられています。また、松尾芭蕉が滞在し、元禄7年(1694)、大坂で客死すると遺言により葬られたことでも知られます。境内は国指定史跡。



ウィリアム・メレル・ヴォーリズ

ひとつやなぎ め れ る
日本名 一柳米来留 (1880-1964)



提供:公益財団法人 近江兄弟社

なキリスト教伝道活動を行うとともに、「建築物の品格は人格と同じくその外装よりもむしろ内容にある」との信念で、全国で約1600にも及ぶ建築設計に携わりました。

メンソレータム（現：近江兄弟社メンタム）を日本に輸入（後に製造販売）した人物であり、当時不治の病として恐れられた結核治療を目的とした近江療養院（現・ヴォーリス記念病院）の建設、さらには、市内の子どものための教育の場として、図書館や近江兄弟学園（現・ヴォーリス学園）の設立など、多岐にわたる社会貢献事業を展開しました。「近江八幡は世界の中心」との思いで、近江八幡のまちを深く愛したヴォーリスの軌跡と精神は今もこの地で生き続けています。

和の文化が色濃く残る近江八幡ですが、まちの中には異国情緒ある洋風建築が数多くあります。それらを手がけたのが、ウィリアム・メレル・ヴォーリス率いる建築設計事務所でした。彼は明治38年、滋賀県立商業学校（現・八幡商業高校）に英語教師として来日しました。来日後、熱心

2026 秋 滋賀 近江八幡 ヴォーリス 建築めぐり

ヴォーリスさんとひと創り、まち創り
～愛と平和に満ちた共に生きる社会をめざして～

「ホームシック。寒い。頭痛がする。寂しい。しかし、もう来てしまったのだ」1905（明治38）年2月2日。ウィリアム・メレル・ヴォーリス（日本名：一柳米来留）は望んだとはいえ、不安の中で近江八幡の駅に降り立ちました。それから120年余り。24歳の青年は携えてきた理念を基に異国の地で多くの仲間と共にさまざまな事業を興し、それは近江八幡に留まらず多方面に広がって行きました。

社名の由来とヴォーリス学園の校章について

近江兄弟社

近江兄弟社という社名は、ヴォーリスの愛した「近江」の地名と、クリスチャン精神に基づき目的に向かって心をつなぐ仲間という意味を持った「兄弟」を合わせて、命名されました。



近江兄弟社は創立された頃、近江ミッション（Omi Mission）と称されていました。1949年、このOとMを重ね、中央にキャンドルをデザインした校章が制定されました。2015年、法人名を「ヴォーリス学園」に変更するにあたって、マークの下に「Vories」の文字を配置し、現在の校章となりました。

西暦	年号	ウィリアム・メレル・ヴォーリス年譜
1964	39	5月7日、7年間の病床生活を終えて召天。正五位勲三等瑞宝章を受ける。5月16日、近江八幡市民葬と近江兄弟社葬との合同葬。遺骨は恒春園に眠る（83才）。
1960	35	日米修好通商百周年に功労者として顕彰を受ける。
1958	33	近江八幡市名誉市民第1号に推される。
1957	32	8月、軽井沢でくも膜下出血のため倒れ、近江八幡の自宅に帰り、療養生活に入る。
1954	29	社会公共事業に対する功績により、監製褒章を受ける。
1941	16	日本国籍取得、一柳米来留（ひとやなぎ め れ る）と改名。
1934	9	「近江ミッション」を「近江兄弟社」と呼称改訂。
1930	昭和5	同志社大学社友に推薦される。
1922	11	母校コロドカレッジよりレトロ（名誉学位）を受ける。
1920	9	妻、満喜子が2年前に始めた清友園ブレイグランドがこの年、滋賀県の許可幼稚園となる。
1919	8	子爵・一柳末徳（ひとやなぎのり）令嬢満喜子と結婚。
1918	大正7	近江セールス（株）設立建築部材・家具・楽器などの輸入販売。メンソレータム（現・近江兄弟社メンタム）を本格的に取引始める。
1910	43	ヴォーリス合名会社設立。
1908	41	同年末から週3日、京都三条YMCA建築監督となるとともに現場事務所でも設計をする。
1907	40	コロドカレッジを卒業。YMCA本部より受けた日本の官立学校教師の公募に応じる。
1905	38	2月2日、近江八幡に到着。滋賀県立商業学校（現・滋賀県立八幡商業高校）英語教師となる。
1904	37	アンドリュース記念館（旧YMCA会館）建設。直後に英語教師を解職されたため、独立伝道者に転じ、副業に建築設計監督事業所を開業（後のヴォーリス建築事務所）。
1902	35	カナダのトロントで開かれた海外伝道学生奉仕団（SVM）大会に出席、テイヤラ女史の講演に感動し、外国伝道への献身を決意する。
1880	明治13	10月28日、米国カンザス州レブンワースで、父ジョン・ヴォーリス、母ジュリアの長男として生まれる。

William Merrell Vories and Omihachiman

William Merrell Vories (1880–1964) was an American-born architect, businessman, and Christian missionary who lived and worked in Omihachiman for the greater part of his life. He left a rich legacy that remains conspicuous in the city today.



観光庁 「この解説文は観光庁の地域観光資源の多言語解説整備支援事業で作成しました」

威廉・梅瑞爾・波利斯与近江八幡

威廉・梅瑞爾・波利斯(1880-1964)出生于美国、是一位建筑师、也是一位实业家、基督教传教士。他在近江八幡度过了人生的大部分时光、并在各处留下了丰厚的文化遗产。

波利斯最出名的身份是建筑师、在这段职业生涯里、他为日本各地设计的建筑总计超过了1600处。

不过在近江八幡、人们念念不忘的还有他的社区精神与对公共事业的奉献。

威廉・梅瑞爾・沃里斯與近江八幡

威廉・梅瑞爾・沃里斯（1880-1964）出生於美國、是一位建築師、也是一位實業家、基督教傳教士。他在近江八幡度過了人生的大部分時光、並於各處留下了豐厚的文化遺產。

沃里斯最出名的身份是建築師、在這段職業生涯裡、他為日本各地設計的建築總計超過了1600處。

不過在近江八幡、人們念念不忘的還有他的社區精神與對公共事業的奉獻。

藪館長の特別ガイドツアーのご案内

ヴォーリス記念館の藪館長が市内に点在するヴォーリス建築をご案内します。「建築物の品格は人格と同じくその外装よりもむしろ内容にある」という言葉を残したヴォーリス建築物の温かさに触れるとともに彼の精神を学べる3時間のツアーです。ツアー中にはヴォーリス入門の楽しい座学時間を設けます。ヴォーリスの魅力を知ることできっと心が満たされると思います。



特別案内日 以下・日程（計11回）

10月10日（土）、11日（日）、12日（月・祝）、24日（土）、
11月19日（木）、20日（金）、23日（月・祝）、26日（木）、27日（金）、28日（土）、29日（日）

参加状況 参加者の約半数はお一人様のご参加です。お気軽にご参加下さいませ。

集合場所 ウォーターハウス記念館（地図③）※近江八幡駅北口より近江鉄道バス6番乗り場「八商前」下車 徒歩5分

集合時間 12:30

解散場所 ヴォーリス学園「ハイド記念館・教育会館」（地図⑫）

解散時間 15:30頃 ※集合場所と解散場所は別の場所になります。ご注意ください。

コース ウォーターハウス記念館→近江兄弟社（ヴォーリス像）→旧八幡郵便局→アンドリュース記念館
ヴォーリスについての講義→ヴォーリス記念館→ヴォーリス学園（ハイド記念館・教育会館）

料金 1人 2,500円（当日払い）※現金のみ
※各入館料、ガイド費、資料代、記念品含む。

案内人数 1回のツアーにつき20人程度

申込 近江八幡観光物産協会まで電話もしくはメールにて以下4項目を記載の上お申込みください。
①代表者の方のお名前 ②電話番号（携帯など当日連絡のつく番号） ③申込人数 ④参加希望日
申込（問合せ）メール omi8@sweet.ocn.ne.jp
（件名はガイドツアーと記載（お伝え）ください。）

備考 全体の歩行距離は1.5km程度です。（すべて平坦な道です）
ウォーターハウス邸（宿泊者の都合により）は、見学エリアが一部制限される場合があります。
各施設に駐車場はありませんので、お車の方は市営小幡観光駐車場をご利用ください。
③建物内には段差があります。着脱しやすい靴がお勧めです。

近江八幡へのACCESS



●お知らせ
ヴォーリスと徳川頼貞
南葵とパイプオルガンの響き
2027年春、近江八幡市内を会場にコンサートを計画中です。ご期待くださいませ。
詳細はQRコードをご覧ください。
主催 南葵音楽文庫

特別企画

ヴォーリスゆかりの 再現ランチ付きコースご案内

藪館長の特別ガイドツアーに、ヴォーリスゆかりの昭和10年代のレシピを再現したランチが付いたコースです



■実施日

10月1日（木）、29日（木）

■集合時間 11:30集合
（ウォーターハウス記念館）
先に、食事を実施、12:30～左記のツアーと同一の内容となります。

■定員 18名

■料金 4,500円
（ツアー代金、食事込み）
※安土城築城450年にちなんだ特別価格

■申込

ウォーターハウス記念館（窓口：まちや倶楽部）まで電話かメールで以下4項目を記載の上お申し込みください。
（お名前・人数・電話番号・希望日）電話0748-32-4654（まちや倶楽部10:00～17:00）申込（問合せ）メール info@waterhouse-kinenkan.com（件名はランチ付きガイドツアーと記載（お伝え）ください）



テレフォンガイド

- 近江タクシー湖東 ☎0748-37-0106
- 滋賀第一交通（タクシー） ☎0120-377-535
- 市営小幡観光駐車場 ☎0748-33-2411
- 近江鉄道バスあやめ営業所 ☎077-589-2000

2025年の2月～12月までの間、ウィリアム・メレル・ヴォーリス（日本人名：一柳米来留）の来日120年を節目とした記念事業を実施しました。各種事業の内容や作成したMAPをHPにて公開していますので、是非ご覧ください。

<https://www.vories.ac.jp/vories120th/>



近江八幡観光物産協会 TEL 0748-32-7003

<https://www.omi8.com>



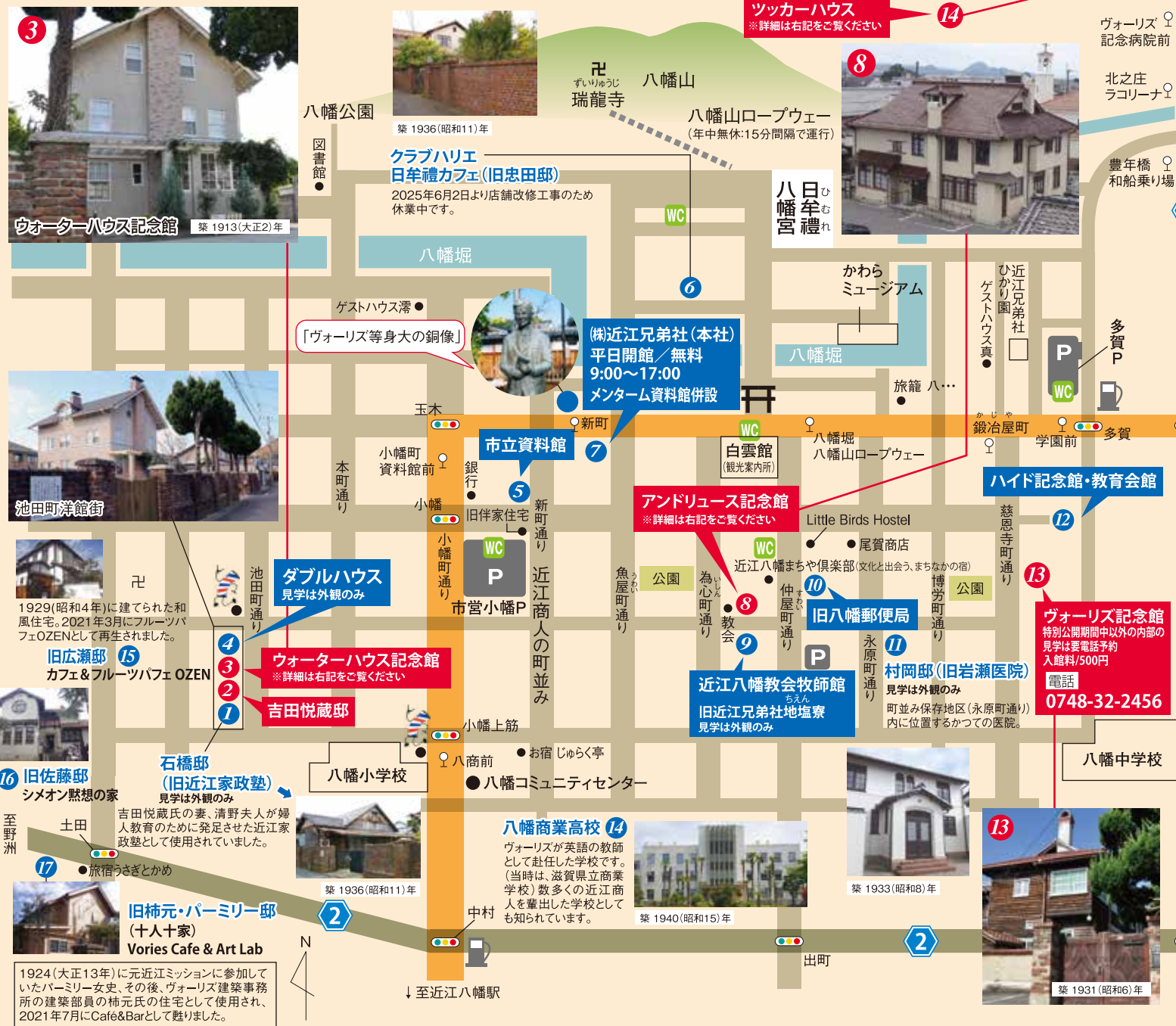
近江八幡駅北口観光案内所
安土駅観光案内所

TEL 0748-33-6061
TEL 0748-46-4234

発行日 2026年9月

ヴォーリス建築散策マップ

1905年(明治38年)に英語教師として滋賀県立商業学校(現在の八幡商業高校)に赴任したのをきっかけに、近江八幡を拠点として活躍したヴォーリズ。近江八幡市には、ヴォーリズによる建築物が20軒余り現存しています。



12. ハイド記念館・教育会館(ヴォーリス学園内)

- 入館料/500円
- 開館時間/10:00～16:00
- 休館日/毎週月曜、年末年始 等
- 電 話/☎0748-32-3444 (ヴォーリス学園)

～ハイド氏について～

家庭保健薬として知られる「メンソレータム」の発明者。ヴォーリズの活動に共鳴して日本での販売権を与え、後の近江兄弟社の事業を支える大きな柱となった（現在は「近江兄弟社メンタム」の名称で順調に事業が続けられている）ヴォーリズとは非常に深い親交があり、終生ヴォーリズの強力な後援者であった。

5. 市立資料館 (郷土資料館)

1953(昭和28年)に増改築されたかつての警察署。
1974(昭和49年)より資料館として利用されています。

(入館有料)

- 電話/☎0748-32-7048
- 開館時間/9:00～16:30(入館16:00まで)
- 入館料/300円(単館券)
- 休館日/月曜日(祝日の場合は開館)、
祝日の翌日、年末年始

9. 近江八幡教会牧師館
(旧近江兄弟社地塩寮)

かつての近江兄弟社の独身青年社員寮です。地塩寮の名は「あなたがたは地の塩である」という聖書の言葉に由来します。

現在は道路向かいの近江八幡教会の牧師館として使われています。

4. ダブルハウス

コロナルスタイルの2世帯住宅。
2個の住宅がレンガ積みの壁を挟んで
対象形の間取りを有し、各々の玄
関ポーチ及び居間を南庭に向けて
配置されている。
建築当時は、近江ミッションレジデ
ンスとして使われていました。

公開プラン 1

予約不要、赤枠欄をご覧ください。

2.

3.

公開プラン②
要電話予約

2026年 秋の特別公開のお知らせ

8 アンドリュース記念館(国登録有形文化財) 近江八幡市為心町中31

↑
約300m
(徒歩で4分
〜5分)
↓

ハーバート・アンドリュースはヴォーリズの大学時代の友人です。
アンドリュースは、ヴォーリズに導かれてキリスト教信者となりましたが、その後、若くして
召天しました。遺族より贈られた資金を基に、ヴォーリズ自身も貯蓄金の全てを捧げ、
自らが設計し**1907年に竣工した「ヴォーリズ設計第一号の建築物」**です。
1Fの書斎と暖炉のある小部屋は「祈りの部屋」と呼ばれ、当時のままの姿が保存されて
います。

13. ヴォーリス記念館(県指定文化財) 近江八幡市慈恩寺町元11

近江兄弟社の創立者であり、近江八幡市の名誉市民第一号であるウィリアム・メレル・ヴォーリズ(一柳(ひとつやなぎ)米来留(めれる))が満喜子夫人と共に過ごした住居をヴォーリズ記念館として運営しています。この建物は、昭和6年に建築されたもので、ヴォーリズの日常生活に関する数々の遺品や資料が保管・展示されています。
(公開は1F居間のみ)

- と き (合計10日間) 11月20日～11月29日
■時 間 10:00～16:00
■料 金 2館で700円(1館400円) ※高校生以下無料
■備 考 ※見学可能エリアに一部制限がありますので予めご了承願います。
※館内での写真撮影や録画はご遠慮願います。
※観光ボランティアガイドが常駐しています。
※駐車場は併設されていません。
入館チケットは各施設でお求め下さい。(予約不要)

2 吉田悦蔵邸(県指定文化財) 近江八幡市池田町5丁目21-3

ヴォーリス建築事務所(当時はヴォーリス合名会社)が設計した初期の住宅で、ヴォーリスと働いた吉田悦蔵の住居として1913(大正2)年に建設されました。住居としてだけでなく、家政塾、ゲストハウス、モデルハウスなどの役割も果たしました。吉田家の住まいとして家具23点が文化財に指定されています。

※吉田邸では、寝具の西で知られる近江商人(西川甚五郎邸)より譲り受けた100年前のドイツ製ピアノ等を使ったコンサートや貸しスタジオ等の利活用をしています。

詳細はHPをご覧ください。 <https://www.yoshidatei1913.com/>

【ご見学の案内】 歴史・暮らし、建物の魅力をお伝えする見学会を行っています。

- 公開日 11月21日(土)[1日限定]
 ■案内時刻 10:00／14:00
 ■案内時間 約60分
 ■定 員 各回10名
 ■参加料金 1,500円／人
 ■要 予 約 ※QRコードにて
- 

春と秋に実施しているサロンコンサートは、11月8日に開催予定です(午前の部11:00~午後の部14:00~)

近江商人の邸宅に保管されていた1929年ドイツの名器「ベシユェン・コンサート8」ピアノとアイリッシュ・ハープをお楽しみいただく予定です。

詳細は、吉田邸HPをご覧ください。



3. ウォーターハウス記念館(国登録有形文化財) 近江八幡市池田町5丁目21

ウォーターハウスは早稲田大学の講師として来日しました。ヴォーリスに共鳴した彼は、一時帰国し神学校で学び夫婦で再び日本に戻り近江ミッションに加入しました。鉄道などが整備されていない当時、彼は、湖畔伝道船(ガリラヤ丸)の船長としても活躍し、各地域で布教活動に力を注ぎました。

2013年に築100年を迎えたウォーターハウス記念館は、アメリカの伝統的な建築様式である「コロニアルスタイル」で建てられており、3階建て11室、暖炉が5箇所、煙突が2箇所備えられています。

現在は宿泊・喫茶室「メレルの庭」等として活用されています。

詳細はHPをご覧ください。<https://waterhouse-kinenkan.com>

14. ツッカーハウス(医療施設群)

メアリー・ツッカー女史の寄付により、1918年にヴォーリスによって結核療養所を前身とする施設です。市民の力により修復され、近年、公開施設となりました。

ボランティアガイドによる「ツッカーハウス・礼拝堂・五葉館」のご案内

- 開館日** 木曜、金曜、土曜、(7月、8月、12月、1月、2月除く)
■案内時刻 1日2回(10時～、13時～)
■案内時間 約90分
■定員 25名
■集合場所 ツッカーハウス(正面玄関前)近江八幡市北之庄町492
■参加料金 維持管理協力金として1,000円(1名)記念品あり
■申込 TEL0748-32-2456(ヴォーリズ記念館)までお申込み下さい
 平日(10時～16時)、見学申込は、前日の正午まで。
 (但し、10名以上の団体の方は休館期間でも予約を受け付けます)

申込問合せ 近江八幡観光物産協会 TEL 0748-32-7003 (日・祝除く9:00～17:00)